

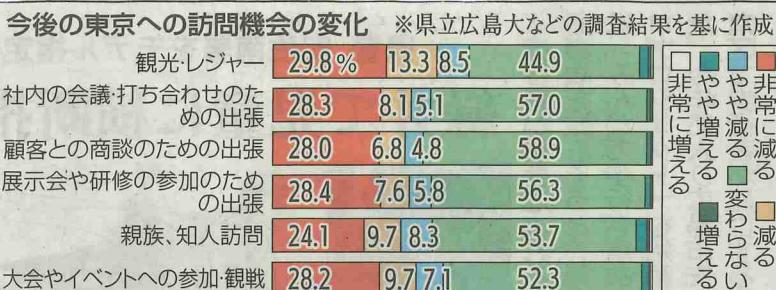
# 上京回復は秋以降か

6/25  
中国

県立広島大調査「10月までに」半数

新型コロナウイルスの影響で減った全国各地から東京への人の移動の回復は秋

□非常に減る  
△やや減る  
■やや増える  
▲非常に増える  
■増える



以降になる可能性があることが、県立広島大（広島市南区）などが各地の主要都市の住民を対象に実施した意識調査で分かった。仕事や観光目的などで「10月上旬までに行く」と答えたのは半数にとどまる。都道府県境をまたぐ移動自粛要請は19日に全面解除されたものの、多くの人が感染を警戒している実態が浮かんだ。

調査は同大が中電技術コ

ンサルタント（南区）と共同

で実施。要請解除を控えた

16、17の両日、東京の市場調

査会社の協力を得て宮城

愛知、大阪、広島、福岡の5

府県のモニターを対象にイ

ンターネットで調べた。20

～60代の男女約8200人

から有効回答を得た。

全回答者のうち東京を昨

年訪れたことがある約3200人に、次に訪れる時期が最短でいつ以降になるか問うた。「2020年6月中下旬」から「22年以降」までの25段階の時期を示して選んだのは全体の52.3%。「20年12月上旬」までを選んだのは5.3%、「21年4～6月」までを選んだのは5.5%、「21年4～6月」まで84.9%となつた。

今後約1年間に上京する頻度の増減も目的別に尋ねた。観光・レジャーが「非

常に減る」と答えたのは29

・8%。「減る」「やや減

る」を合わせると51・6%

に上つた。「社内の会議・

打ち合わせ」「大会やイベ

ントへの参加」も4割以上

が減るとした。

分析した同大大学院の江戸克栄教授（マーケティングリサーチ）は「解除後も

国民の多くは早期の上京を

控えようとしている。停滞

した経済をきちんと動かす

する。

（田中美千子）

戸克栄教授（マーケティングリサーチ）は「解除後もある」と話す。今回の意識調査の詳報は7月15日、同大のウェブサイトに掲載